

※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。

## 【イントロダクション】

### あいさつ・フォーラムの趣旨説明・主催団体の紹介

(録音の同意をいただいて、録音開始)

(総合 F) それでは、始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まずは今日の資料の確認をしたいと思います。机にある資料をご覧ください。上のほうにたくさん書類がありまして、そのあと、封筒と何かの投票用紙のようなものが入っていると思います。これは最後に使いますので、このままファイルに入れておいてもらえればと思います。

資料については、もし足りないものがありましたら、あとでお声かけいただければと思います。最初に今日のフォーラムのプログラムがあります。次に、メンバー表があります。次に、「フォーラムが目指すもの」というパワーポイントの資料があります。後ほど詳しくお話をさせていただきます。次に、フォーラム参加に関する諸条件についての同意書と、同意撤回書があります。こちらも後ほど説明いたします。次に、「フォーラムの目的」というパワーポイントの書類があります。次に、ピンク色の紙の、ブレインストーミングの進め方という書類があります。次に、青い紙のホチキス留めの資料があります。「グループワーク 1」と書いてあるものです。次が、第 1 回フォーラムに関するアンケートです。次に、このフォーラムは 2 つの団体が協力してやっておりますので、その紹介のための書類が 2 種類あります。パブリック・アウトリーチと持続可能な社会をつくる元気ネットの紹介資料です。もし足りないものがあつたら、途中でも構いませんので、お声かけいただければと思います。

配布資料の一番上にある、第 1 回フォーラムのスケジュールをご覧ください。今日の流れをざっと説明させていただきます。

今、13時にスタートいたしました。これから1時間くらいかけて、開会の挨拶や趣旨説明、そして運営者側の自己紹介と、皆様から一言ずつ自己紹介をいただきたいと思っています。

14時からはグループワーク 1 ということで、グループワークを進めていきたいと思っています。細かい進め方は、その都度きちんとご説明させていただきます。

その次に、14時 50分からグループワーク 2を行います。

その後、15時 35分から全体での意見共有を行います。

16時 5分からはグループワーク 3になります。次回のテーマについて、皆さんに話し合

っていただく時間です。

最後に、今日の振り返りということで、アンケートをご記入いただいて、どのようにお感じになったかを一言ずつ話していただきます。

そして、17時にフォーラムを終了する予定です。

その後、この会場で、会費をいただきますけれども、懇親会を予定しています。ざっくばらんにお話をしていただければと思います。懇親会は19時に終了予定です。申し込んでいなかったけれども、都合がつくという方がいらっしゃいましたら、受付のほうにお申し出いただければ大丈夫ですので、よろしく願いいたします。

それでは、こういうことで、今日を始めていきたいと思いますが、よろしいですか？

お待たせいたしました。それでは、第1回フォーラムということで、ご挨拶、そして趣旨などをきちんと説明させていただきたいと思います。研究代表者の木村浩から申し上げます。

ここで皆さんにお断りしておきたいのですが、この後、運営者側も、ご参加の皆様も、いろいろな方がお越しなので、全員「さんづけ」ということで統一させていただければと思います。よろしいですか？ ありがとうございます。

それでは、ご挨拶と趣旨説明ということで、木村さん、よろしく申し上げます。

(木村) ただいまご紹介にあずかりました、パブリック・アウトリーチの木村浩と申します。よろしく願いいたします。

本日は、初夏の暑い中に、本当に遠いところからもお越しいただき、ありがとうございます。これから5回のフォーラムになりますが、皆さんと一緒にいろいろ考えて、話し合っていて、いいものにしていきたいと思っていますので、これからもよろしく願いいたします。

皆さんには、事前に「フォーラムのご協力のお願い」という、A3を2つに折りこんだ資料をお配りしていると思いますけれども、こちらの中身を、分かりやすくスライドにまとめましたので、そちらで紹介をしていきたいと思っています。「フォーラムが目指すもの」という資料をご覧ください。

(スライド1) フォーラムは何を目指しているのかということ、説明させていただきたいと思います。

(スライド2) そもそも、フォーラムをやろうと思ったきっかけですが、2011年3月に東日本大震災、また、それに伴って福島事故が起こったわけですが、私は原子力と社会との関係をずっと研究してまいりましたので、その中で調査を続けてまいりました。

ここに、2014年1月に実施したアンケートの結果の一部を示しています。ここに示してあるように、今、原子力業界が信頼を欠如している状況である、ということです。

首都圏の人たちを対象とした調査なのですが、様々な対象に対し、信頼していますか、それとも信頼していませんか、という質問をしています。こちらの赤やオレンジの暖色系のものが信頼しているという層です。あちら側の青や緑の寒色系のものが信頼していないという層になっています。

これをパッと見ると、「政治家」や「官僚」は非常に信頼されていないわけですが、それに引き続き、「マスメディア」が比較的信頼されていないことが分かります。この中で特に注目したいのは、日本において、「科学者・研究者」は比較的信頼されています。信頼しないという人たちはそれほどいません。こういう状況であるにも関わらず、「原子力の専門家」と聞くと、信頼しているという人たちが非常に少なくなります。信頼できないという人たちが多くなっています。福島事故以前からこのような傾向はあったのですけれども、福島の事故を受けて、さらに信頼を落としていって、まったく回復の兆しが見えていない。

これが何か悪いことを起こすのではないか、というのが、私がこのような研究を始めたきっかけとなっています。

(スライド3) 続いて、イメージ図を出させていただいています。本研究は「原子カムラ」という言葉をひとつのキーワードにして立ち上げていますが、原子カムラというのは、ある意味では原子力業界の中の人たちを示すわけで、中があるということは外もあるだろうということで、非常に単純に二極化して構造を考えています。私もいろいろな人のお話を聞きしてきたのですが、その中で、どうもこのようなイメージがあるのではないか、ということが分かってきました。

まず、原子力に携わっている人たちがどのような印象を持っているのかというと、何か起こったとすると、それを「きちんと説明しなければならない」と思うわけです。でも、「こんなことまで説明したら、ますます人々から信頼を失いそうだ…」「どうせ難しい話をして、人々は理解できないのではないか」というのもどこかで思ってしまう。

でも、説明をしなければということで説明をするのですが、そうすると今度は説明を受けたムラの外の人たちは、「また何か起こったのかな」と思うわけです。そういう情報を見ながら、「どうせ難しいことしか言わないだろう」「そんなに問題が小さいわけがない。何か隠しているのだろう」「私たちのことを、どうせ理解できないと見下しているのだろう」「本当のことを言っているのかどうか、信用できない」と思っている。

それを受けて、今度はムラの中の人たちが、「やはり全然分かってもらえなかった」「分かってもらえないのに、全てを話せと言われていたけれども、本当に全てを話す必要があるのか」「でも、きちんと説明しなければ」、と考える。

このような循環があるのではないかと考えました。ここで、白抜きになっている吹き出しは、自分の意思を表していたり、自分の疑問を表しているのですけれども、青く塗り

つぶしてあったり、ピンクで塗りつぶしてある吹き出しは、必ずしも証拠を持っているわけでもないのに、相手に対して、こんなのではないかと推測をしてしまっているような、まさに「思い込み」なのですね。相手に対しての思い込みが先に立って、それによってコミュニケーションがうまくいかなくなって行って、それが循環して、どんどん不信状態に陥っている。

今、原子力と社会との関係性は、こういう状況に陥っているのではないかと、という仮説を立て、ではこれをどうにかしなければいけないだろうということで、この研究を始めたということになります。

(スライド4) このような背景があつて、基本的には専門家と呼ばれる人と、市民と呼ばれる人たちの間に、不信感がある。そういう中で、コミュニケーションというのはなかなか成立しない状況にある。でも、それを打破していくにもやはりコミュニケーションが必要だろうと考えて、「フォーラム」というものを作りました。

フォーラムの目指すものは、フォーラムでの対話を通じて、市民と専門家がお互いを尊重し、コミュニケーションできるようになる仕組みを創り出すことです。

ですので、これは、私たちがそうしようと言うのではなくて、皆さんには、こうやっていくとコミュニケーションができるのではないだろうかということをごくごに思ってもらいながら、このプロジェクトに参加していただきたいと思っています。

さて、以上を踏まえ、いろいろなことを考えて、今回の場を作っています。

例えば、市民と専門家が対等な立場で対話ができるように、どのように仕組みを作ったらいいたろうか。

あとは、伝聞だとどうしてもその間にいろいろなものが重なってきてしまって、うまく伝わらないので、直接のコミュニケーションが必要なのではないか。

公平と思えるような対話の場は、どうやったら作れるだろうか。こういうことをいろいろと考えながら、フォーラムを設計してきました。

(スライド5) この後は、フォーラムをどのように設計していったのかを、皆さんにご紹介していきたいと思っています。

まず、参加者についてです。市民の代表として、首都圏の方々9名にお越しいただいています。専門家の代表として、原子力学会員の方々の9名にお越しいただいています。

この9名、9名に対して、どのように公平性・公正性をこちらで用意しておけばいいのか。市民については、今年の1月に実施した首都圏の調査の中で、原子力の利用に関してどのように思いますか、という質問を取っています。こちらが首都圏の調査の結果ですけれども、利用側の人々が2割くらい、廃止側の人々が5割、残りがどちらともいえないという結果になっています。この割合になるべく合わせるように、そして男女の比が同じになるように、今回の参加者9名を選ばせていただきました。

こちらに1(2)名、3名、5(4)名と書いてありますけれども、これは皆さんに参加を  
お願いしたときの応募書の中の、原子力の利用についての回答の割合を示しています。「利  
用」「どちらかといえば利用」という人が1名、「どちらともいえない」という人が3名、「廃  
止」「どちらかといえば廃止」という人が5名です。1名だけ、今は利用だけれども、いず  
れは廃止であるというふうに、矢印つきでご回答いただいた方もいらっしゃいまして、そ  
れをどのように表現すればいいか悩んだのですが、カッコ書きで表現させていただきました。  
このように、少なくとも原子力の利用の考え方については、首都圏の皆さんと合うよ  
うに、今回皆さんに協力をお願いしたということになります。

一方で、原子力学会員の方々は、様々な職業に就かれていて、様々な分野に携わって  
います。原子力というのは非常に広い分野です。そういう広い分野にいる方々をなるべく網  
羅的に集めたいということで、9名をお選びしています。

なお、申込書には10名ずつと書いていたのですが、その後、我々の中でフォー  
ラムの進め方を考えていき、3グループでのグループワークを中心にやっというこ  
となり、それぞれのグループの中でも対等な人数を確保したいということで、3の倍数であ  
る9名に変更させていただきました。グループワークで3名、3名になるように設計する  
ということで、今回は9名、9名という人数に絞らせていただいております。

これで首都圏住民全て、原子力学会員全てを代表できるわけではないのですが、  
母集団をある程度反映したような話し合いができないだろうか、と考えていること  
です。

(スライド6) 次に、フォーラムの運営側についても、いろいろと考えています。皆さん  
が会場に来られたときに、周りにたくさん人がいて、こんなにいるのか、という印象を受  
けたかもしれませんけれども、かなり運営にも気がつかっています。

私が所属している、NPO法人パブリック・アウトリーチが、研究立案、実施、そしてフ  
ォーラムの運営責任を担当しています。

また、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットさんに、フォーラムの進行や対話の  
支援をお願いしています。今回は、グループワークで話し合いをしていただくわけです  
けれども、そのときの支援を、ファシリテーションの経験が豊富なNPOの方々にお願  
いしております。

さらに、本日ここには来ていませんけれども、皆さんには事前にアンケート調査に回答  
していただきましたし、今日もアンケートを取って、毎回データを蓄積する予定ですが  
けれども、それを専門で分析する方もお願いしています。

では、これらのNPOがどういうものなのかを簡単に説明していただきたいと思  
います。まずはNPO法人パブリック・アウトリーチについて、神崎さんから説明して  
いただきたいと思っております。

(神崎) NPO 法人パブリック・アウトリーチの神崎でございます。本日は、ようこそおいでいただきました。こちらの資料をご用意ください。

特定非営利活動法人パブリック・アウトリーチの代表者は田中知、設立年月日は平成 21 年 1 月となっております。

東京大学の地震研でアウトリーチ室ができたのが平成 15 年でした。その後、小松左京の「日本沈没」が公開されて、地震研のアウトリーチ室が人気を博しまして、地震研はアウトリーチ活動を自信を持って行っていきました。それになぞらえたわけではありませんが、平成 21 年に至るまで 10 年以上、こつこつと、こういう活動をしようということを重ねてきて、平成 21 年に NPO 法人として設立されました。

活動の目的は、複雑怪奇になっている科学技術が社会にどのように役立つか、どのようなものであるかということ、分かりやすく、できるだけ双方向の対話を通じて浸透させ、皆様に科学技術を身近に感じていただくということです。

そういうことで、パブリック・アウトリーチが母体となって、文科省の研究を受けたわけでございます。

これまでの主な活動は、右側書いてありますけれども、基本的には講演会などを開催してまいりました。平成 24 年度から、文科省の受託を受けて、木村浩が代表となり、フォーラムに関わるプロジェクトに取り組んでいます。

裏面をご覧ください。写真がついていると思いますが、このフォーラムでどういうことが行なわれるかを示しています。皆さんでたくさんの意見を出していただいて、整理しながら考えて、出された意見を共有する。そして、最後にシンポジウムで成果を発表させていただきます。

それでは、今この場にいるパブリック・アウトリーチのメンバーを紹介させていただきます。ご起立をお願いします。フォーラムのメンバー表の順番で紹介させていただきます。

(中略)

以上でございます。(拍手)

(木村) それでは、引き続いて、元気ネットさんの紹介を、鬼沢さんからお願いいたします。

(鬼沢) こちらの資料をご覧ください。持続可能な社会をつくる元気ネットの紹介をさせていただきます。

1995 年に容器包装リサイクル法ができたのがきっかけに、全国各地で市民活動が非常に盛んになりました。それを基に、地域の市民活動、自治体の職員さん、あるいは専門家の皆さんと一緒に、ごみについて真剣に取り組んでいる皆さんのネットワークを作ることを目的に、1996 年に「元気なごみ仲間の会」として、市民団体として発足しました。2003 年に「NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット」に登録をして、今年で 18 年の活動

になります。

具体的には、2001年から、「市民がつくる環境のまち“元気大賞”」という事業を行ってまいりました。これは、全国各地の地域の環境活動を、市民の立場で応援しようという取り組みです。ここにあるにぎやかな写真は、元気大賞を受賞した団体、与論島でしたが、そこに翌年エコツアーで伺ったときの、琉球文化の踊りを見せていただいているときの写真です。

次のページをご覧ください。12年間続けてまいりました「市民がつくる環境のまち“元気大賞”」には、全国各地の地域性を活かしたとても素晴らしい活動がたくさんありました。12年間の入賞事例86件を、今後、アジアに向けて発信していきたいということから、その中から31事例をピックアップして、日本語と英語の表記にした冊子を昨年作りました。

どうしてアジア向けなのか。私たちの暮らしは、様々な課題を抱えています。それを市民の立場として解決に向けていきたいということで様々な活動をしてまいりましたが、市民、事業者、行政のパートナーシップで問題を解決していくということをいつも基本にしています。そして、2009年からは、国内でごみ問題や3Rについて活動している全国規模の団体19団体と共に、「アジア3R推進市民フォーラム」を開いてまいりました。毎年環境省と国連機関が、アジア各地で、アジア3R推進フォーラムという国際会議を開かれるのですが、そのときに、現地でサイドイベントとして一緒に大会を開いてきました。そういった関係で、今後アジアに向けて、日本各地のいろいろな活動をぜひ発信していきたいということで、先ほどの冊子を作りました。

その他、3Rの普及や、市民リーダー育成の事業などは企業の皆さんとも連携してやっております。

そして、このフォーラムに一番関係する取り組みが、高レベル放射性廃棄物に関する学び合いの場作りです。2007年から開催してまいりました。次のページを見ていただくと、日本地図があります。これまで、全国75地域でワークショップを開催してまいりました。単にワークショップを開催するだけではなくて、その地域で活動している地域リーダーの皆さんにファシリテーターを務めていただきながら、お互いに学び合いの場作りを実施してまいりました。そこで、木村さんとの出会いがありました。当時、木村さんは東大にお勤めで、リスクコミュニケーションに関する調査をずっと続けてこられていましたので、講師をお願いして、全国各地をご一緒したのがきっかけで今日に至ります。

それから、3.11の事故があって、放射線に対する心配や不安の声が非常に大きくなりました。情報が錯綜する中で、不安ばかりが大きくなるということで、ぜひ地域でも自ら放射線について学び合う場を開いてほしいということで、これまでのワークショップの経験を基に、「放射線学びあいBOOK」というワークショップ開催のマニュアルを作成いたしました。これは、地域の課題がなんであれ、このマニュアルを見ながら、地域で学び合いの場を実施していただきたいという思いで作ったものです。

最後のページを見ていただきたいのですが、高レベル放射性廃棄物のワークショップを

全国で開催するにあたり、主催している私たちも、一歩先を進んでいる海外はどうなっているのかということに非常に興味を持ちまして、2009年の8月から9月にかけて、スウェーデンとフランスを自費で4人で見てまいりました。そのときのインタビューを冊子にまとめて、発行いたしました。

それから、昨年から実施しているのがマルチステークホルダー会議です。現在、政府の各種リサイクル法の見直しの最中です。昨年は容器包装リサイクル法、食品リサイクル法、家電リサイクル法の見直しが行われ、今もまだ続けております。国の審議会の中ではなかなか議論する時間がないので、様々なマルチステークホルダーが集まって、よりよ見直しに向けて私たちは何をしていたらいいのかを考えるマルチステークホルダー会議を、昨年3回開催いたしました。テーマは、協働型で何ができていくのだろうか。お互いにそれぞれの言い分を主張していても仕方がないので、協働することで、見直しに向けて何ができるかということに焦点を絞って、開催いたしました。その見直しに向け、最初の法律を作るにあたって参考になったEUの視察をしてまいりまして、その写真が下に載っておりますので、ぜひご覧ください。以上です。

それでは、元気ネットの皆さん、お立ちください。

(中略)

よろしくお願いいたします。(拍手)

(木村) 先ほど鬼沢さんのほうからありましたけれども、私がまだ東大で原子力のリスクコミュニケーションの研究をしていたときに、原子力のごみも考えなければいけないのではないかとということでお声かけいただき、そこでいい縁ができてまして、今回の私のプロジェクトにも、ぜひ進行や対話支援をお願いしたいということで、ご協力いただいたということになります。

このような運営メンバーで、フォーラムを進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(スライド7) それでは、こちらのスライドの説明に戻りたいと思っております。

実施日については、もう皆様にお伝えしております。ポイントは、お互いに理解していくためには、同じメンバーで繰り返し、繰り返し対話することが非常に大切だということです。当たり前ではあるのですが、なかなか実施しにくい思いつきです。ですので、本当は5回というのも短いと言われるのですが、せめて5回を1セットとして、フォーラムを実施させていただいております。今日から隔週の土曜日ということで、大変なスケジュールではございますけれども、ご協力をお願いしたいと思います。

(スライド8) フォーラムでは具体的に何をするのか。応募書類の中にも、フォーラムの概要について簡単に触れているものがありましたけれども、今日皆さんがお座りになって

くださっているように、小グループでのグループワークを中心にした話し合いをしていきたいと思っています。グループワークは 6 名程度で行います。ご来場いただいたときに、くじ引きをさせていただきます。くじに従って席に座っていただいておりますけれども、今後もこうやってくじ引きでグループを決め、毎回毎回違う人と組めるようにやっていきたいと思っています。

毎回テーマを決め、それについて一緒に話し合っただけで考えていくという形になります。必ずしも答えを出すというわけではなくて、オープンな話し合いにして、いろいろな意見を交換していただくことが趣旨になります。

また、グループの中の 1 人に「ファシリテーター」を務めていただきます。ファシリテーターは、実はくじ引きによってすでに決まっています。後ほどグループワークのときに詳しくお話しますが、参加者にファシリテーターになっていただいて、それをサブファシリテーターの方が支援をするという形で、参加者の中だけで話し合いが進む。そういうことをゆっくりでもいいのでやっていくということが、対等な話し合い、公平な話し合いにつながるのではないかとということで、こういう設計をしております。

そして、グループワークをした後に、それを全体で共有します。各グループで何を話し合ったのかということ共有していきます。

大きな流れは、以上のようなものになります。グループワークをし、全体共有をして、振り返りをする。そんな形でフォーラムが進んでいきます。

(スライド 9) では、どういうテーマを話し合うのか、ということです。

初回のテーマは、私たちのほうで決めさせていただきます。「原子カムラ」とは何だろうか？ こちらは「協力のお願い」からの抜粋です。“たとえば、「原子カムラ」という言葉は、マスメディアやインターネットなどで、原子力に関わっている人たちにレッテルをはるために使われています。”と書いていますけれども、必ずしもこれに引きずられることなく、今日は、原子カムラについて、自由にディスカッションをしていただきたいと思っています。何か答えがある問いではありません。また、原子力を知らなければ答えられないものでもありません。そういうテーマをあえて選んでいます。市民の方と専門家の方が普段どういう考えをしているのかを自由に交換してもらうことを意図して、このテーマを選ばせていただいています。

最終回も、もう一度原子カムラについて考えてもらおうと思っています。最初と最後のテーマは決めさせていただきます。

ですが、その他の回のテーマは、皆さんに決めていただきたい。今日も、最初のスケジュール説明にありましたように、次回のテーマを決める時間をセットしています。皆さんで話し合っただけで、テーマを決める、という段取りを考えています。

(スライド 10) また、フォーラムの様子は録画、録音させていただきます。記録につい

ては、公開するものと非公開のものがあります。

録音データは、書き起こして、個人情報や不適切発言を私のほうで削除して、全てホームページで公開いたします。これは、皆さんにも見ていただけます。そういう状態で、フォーラムの運営が公正であることを確認しながら、皆さんと一緒にやっていきたいと思っています。

一方で、録画のほうですけれども、これは学問的な観点から録画しているものです。こちらは一切公開しません。一切出さないということを約束したいと思います。

また、皆さんの個人情報は一切外に出しませんし、どういう職業か、どういう会社に勤めているのか、そういうところも一切出さないようにこちらで加工して、ウェブサイトで公開していきます。

ですので、逆に、皆さんも、個人的に Twitter やブログなどをされるときには、個人が特定されないように配慮していただきたいと思います。

(スライド 11) ということで、公平や対等な場を作るためにはどうすればいいのか。その中でどうやってコミュニケーションを作っていけるだろうかということを考えて、このフォーラムを設計してまいりました。皆さんには、お集まりいただき、本当に感謝しております。

もう一度目的を言わせていただきますけれども、「フォーラム」での対話を通じて、市民と専門家が、お互いを尊重し、コミュニケーションできるようになる仕組みを創りたい。それを皆さんと一緒に考えていきたいということでございます。これからもよろしく願いいたします。

(総合 F) 木村さん、ここで、少し質問の時間を取りたいと思うのですが、よろしいですか。ここまでのところで何かご質問、あるいはもう少し説明してほしいということはあるますか？

—— 今質問することかどうかわからないのですが、これは 3 か年の事業で行われていると思うのですが、文部科学省の年間予算はいくらですか？

(木村) そういえば金額の話は書いていませんでしたけれども、1 年あたり 3000 万円程度ということになります。

(総合 F) 研究費をいただいて運営をさせていただいております。大事な質問をありがとうございます。

他に、よろしいですか？

—— ここでいろいろ議論された結果として、いろいろな方向性や指針が出ると思うのですが、そういったものは今後どのように出されるのですか？

(総合 F) 今回のフォーラムの研究結果をどのように活かそうとしているのか。大事な質問をいただきました。ありがとうございます。

(木村) ここに目的が書かれていますように、一番の目的は、コミュニケーションが成立するための仕組み、そういう対話の場をどう設計するのか、を提案していくことです。それを「システム化」と我々は呼んでいますけれども。ある種の定型を作って、こういうコミュニケーションの場を作れば、こういうことが期待できます、という話をします。

一方で、原子力の話題とか、エネルギーの話題とか、いろいろな話が皆さんの中で出てくるかもしれません。そういう話については、基本的にオープンエンドでお話をいただいて、そこから出てきたことが成果に結びつくというものではない、ということになります。

あくまでも、一歩引いた、コミュニケーションの手法の開発が、本研究の目的になります。

(総合 F) 重ねて私から質問させてください。先ほどの質問のご趣旨の中には、文部科学省からの研究費でやっている本研究の成果をどういうところで発表するのか、もう少し具体的なイメージを知りたいというものがあつたと思います。

(木村) 発表という意味では、次のスライドに諸条件等が書かれていますのですが、様々な学術的な場で話をしたり、論文を書いたり、解説を書いたりしています。ホームページにも、どういうところで成果が出ているのかが書かれていますので、ご覧ください。

(総合 F) それでは、今お二人からご質問いただいたことにも関連しますので、最後のスライドを説明していただければと思います。その流れでよろしいですか？ はい、ありがとうございます。

(木村) (スライド 12) はい。ここまでは研究の流れをお話ししてきましたけれども、フォーラムに伴う諸条件等ということで、少し事務的な話になりますけれども、ご説明したいと思います。

今回のフォーラムでは、学術的分析の視点から、以下を行います。

まず、アンケートを実施させていただきます。これは、今日お持ちいただいたアンケートから始まって、フォーラム終了後にも同様のアンケートに答えていただきます。また、各フォーラムの後に、今回の資料の中にも 1 枚入っていますが、このような簡単なアンケートを実施します。つまり、計 7 回のアンケートをさせていただきます。このアンケート

の分析責任者は、関西大学の土田さんということになります。個人情報と徹底的に管理して、木村以外は個人情報とその回答が結びつかないような形にします。

それから、このフォーラム全5回が終わった後に、皆さんに1人ずつインタビューを実施いたします。これはフォーラム終了後ですので、8月ごろを計画しています。これは、コミュニケーションのシステムとして、このフォーラムというものをよりよいものにしていくためのインタビューです。もしくは、今回のシステムがどういう成果を生み出していたかを知るためのインタビューになります。パブリック・アウトリーチの私と竹中と丸山が中心になって行うことになります。なお、日程は最終回に調整したいと思います。

次に、フォーラムの参加に伴う謝金ですけれども、合計で3万円ということになります。フォーラム1回につき5千円、インタビューで5千円、かける6で3万円です。ただし、源泉徴収税別、交通費込みになります。

また、今回のフォーラムは、平成24年度、25年度、26年度の原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ、「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行」ということで、文科省よりNPO法人パブリック・アウトリーチが受託して、実施しております。特に、今回は第2期のフォーラムということ、25年度、26年度の予算で行われております。

成果の公表は、学会等でさせていただくことになります。

では、引き続きまして、お配りしています「フォーラム参加に関する諸条件について（同意書）」について、神崎さんから、さらに事務的なお話を一通り確認させていただきたいと思っております。最近いろいろところで研究倫理の問題が大きく取り上げられていますけれども、このような社会実験も、研究倫理をしっかり守らなければならないということ、その手続きをこれからさせていただきたいと思っております。ご協力をお願いいたします。

（神崎） それでは、同意書と同意撤回書の2枚の紙をご用意ください。お分かりでしょうか。同意書のほうを1つ1つ読み上げて、確認させていただきます。文面を読んだ後、これに同意していただける場合は、今日の日付とお名前を書いていただけますか。その後で、スタッフで集めさせていただきます。では、読みます。

フォーラム参加に関する諸条件。

フォーラムの協力者の資格について。フォーラムの協力者には、原則5回のフォーラムすべてに参加していただくことになります。また、フォーラムの協力者は原則として「フォーラム参加申込書」にご回答いただいた方から決定いたします。決定の方法は本冊子に記載したとおりです。皆様はもうこちらにお出でいただいているので、資格は満足されていると考えさせていただきます。

フォーラムの参加の任意性について。フォーラムへの参加は任意です。フォーラムへの参加をお断りになることにより不利益を被ることはありません。また、一度、参加に同意した場合においても、参加への同意をいつでも撤回することができます。撤回に伴い不利

益を受けることはありません。

フォーラムの参加に伴う危害の可能性と、それに対する配慮について。

1. 募集時に研究の目的およびフォーラムの概要、個人情報の取扱（連結不可能匿名化して扱う）について説明いたします。「フォーラム参加申込書」を提出された場合、協力の同意を得られたとして、協力者として研究に参加していただく候補となります。

2. 第1回フォーラムのイントロダクションにおいて、再度研究の目的およびフォーラムの概要、個人情報の取扱について説明し、協力の同意を再確認します。ここで同意の確認が得られなかった場合は、フォーラムへの参加を取りやめることができます。

3. 各回の冒頭で、録音や録画についての協力をお聞きし、同意が得られた場合に、録音や録画を開始します。同意が得られなかった場合、その回の録音や録画を取りやめます。

4. フォーラムにおいては、協力者が答えられない、もしくは、協力者が不快と感じた質問項目については、当該項目の回答を強要いたしません。

5. フォーラム途中で協力を取りやめる旨が示された場合は、速やかにそれに対応いたします。

傷害保険等への加入について。フォーラム実施者は団体傷害保険に加入し、実施者に損害賠償の責任が生じた場合、補償に対応できるようになっております。これについて1件質問がございました。例えば、転んでけがをなさった、あるいは、悪意ではなく建物に損害を与えた場合、これが補償される保険に加入している、ということがございます。

フォーラム参加申込書の情報の取扱について。お知らせいただいた個人情報は、フォーラムに係るお知らせ、連絡や問い合わせなどの目的で、本研究のみで利用いたします。それ以外の目的で利用したり、法令に定める場合を除き、事前に皆さまの同意を得ることなく、第三者に提供することは一切ありません。

また、

(木村) ここはもう説明しましたので、結構です。

(神崎) では、最後に、研究成果の公表について。本研究によって得られた研究成果は、様々な学術的な場等において公表します。また、知見の一部は、文部科学省に対して開示されます。

以上でございますが、これらの事項についてご確認の上、フォーラムに参加することに同意していただく場合は、こちらに日付とサインをお願いします。今、スタッフが集めにまいりますので、よろしくをお願いします。

何か質問があればお受けいたしますが。

(総合 F) 同意撤回書というものがありますが、これは皆さんにそのままお持ちいただいて、後々そういう気持ちになったときにご活用いただく、ということですのでよろしいですね？

(神崎) はい。それで結構でございます。よろしくお願いいたします。

(総合 F) そういうことですので、撤回書はお持ち帰りください。

(神崎) それでは、集めにまいります。よろしくお願いいたします。

(同意書の回収)

(木村) ただいま紹介した内容は、応募時にお配りしています、A3を2つ折りにした資料に同じ記述がございますので、そちらはお手元にお持ちいただければと思います。

以上で、私からの研究のご説明、および、倫理的な観点からの皆さんへのお願いは終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。(拍手)

(総合 F) ありがとうございます。

流れの中で皆さんにもお分かりいただけたかとは思いますが、私は総合ファシリテーター、総合的な司会進行役なのですけれども、皆様が、質問したいこと、あるいは、疑問に思われたことがあるときには、すぐに合図していただければ、きちんと関係の方にお答えいただくようにするなり、研究者チームと参加者の皆さんの間をつなぐようなことをやらせていただきますので、よろしくお願いいたします。